

令和元年産もも、すももの結果樹面積、収穫量及び出荷量

— ももの収穫量は前年産に比べ5%減少、すももは同22%減少 —

【調査結果の概要】

1 もも

結果樹面積(注)は9,540haで、前年産に比べ140ha(1%)減少した。

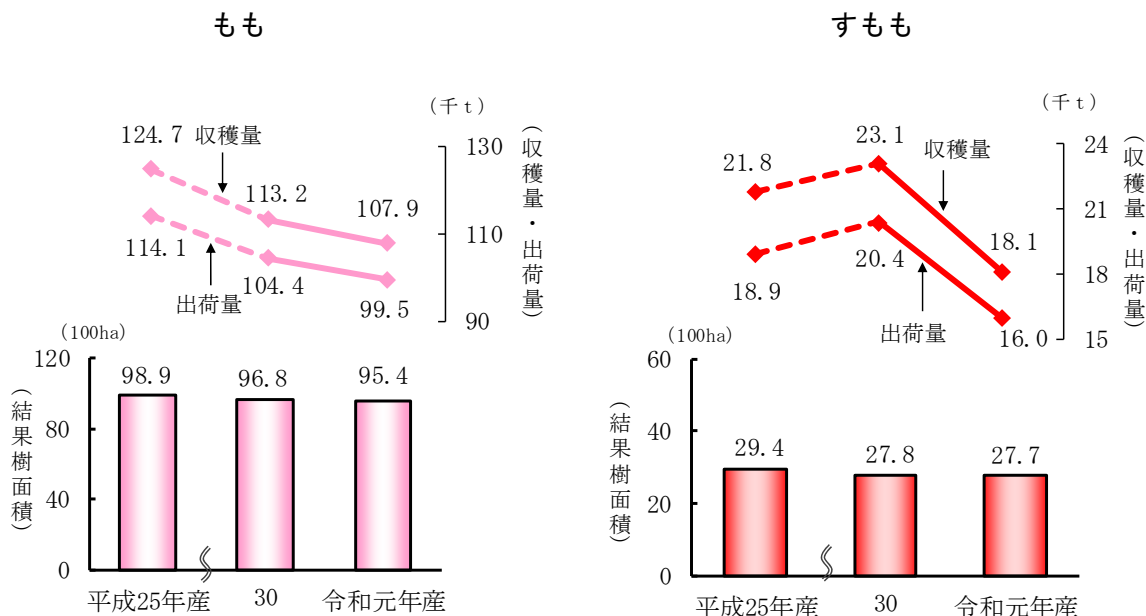
収穫量は10万7,900t、出荷量は9万9,500tで、前年産に比べそれぞれ5,300t(5%)、4,900t(5%)減少した。

2 すもも

結果樹面積は2,770haで、前年産並みとなった。

収穫量は1万8,100t、出荷量は1万6,000tで、前年産に比べそれぞれ5,000t(22%)、4,400t(22%)減少した。

図1 もも、すももの結果樹面積、収穫量及び出荷量(全国)



注：結果樹面積とは、栽培面積のうち生産者が本年産の果実を収穫するために結実させた面積をいう。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kazyu/index.html#y6 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 果実を安定的に供給するための生産努力目標の策定及びその達成に向けた各種対策の推進のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく果樹共済事業の適正な運営のための資料

◎ 累年データ

1 ももの結果樹面積、10 a 当たり収量、
収穫量及び出荷量（全国）

2 すももの結果樹面積、10 a 当たり
収量、収穫量及び出荷量（全国）

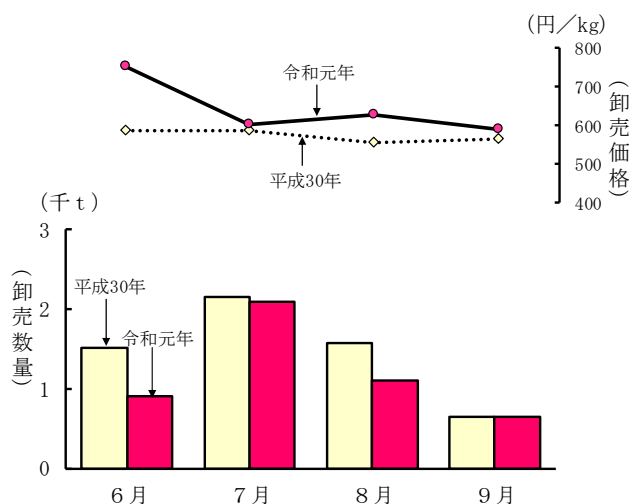
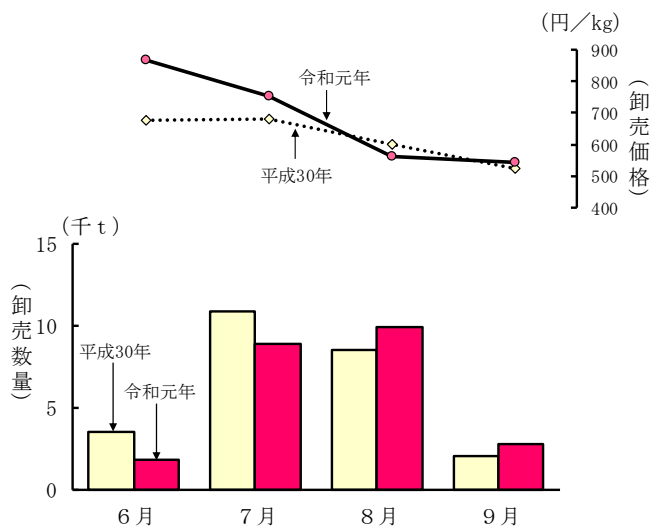
年 産	もも				すもも			
	結果樹面積 ha	10 a 当たり 収 量 kg	収 穫 量 t	出 荷 量 t	結果樹面積 ha	10 a 当たり 収 量 kg	収 穫 量 t	出 荷 量 t
平成 22 年産	10,000	1,370	136,700	125,700	2,990	699	20,900	18,100
23	9,980	1,400	139,800	128,100	2,970	758	22,500	19,600
24	9,950	1,360	135,200	123,700	2,970	751	22,300	19,300
25	9,890	1,260	124,700	114,100	2,940	741	21,800	18,900
26	9,850	1,390	137,000	125,400	2,900	769	22,300	19,600
27	9,690	1,260	121,900	111,400	2,880	740	21,300	18,600
28	9,710	1,310	127,300	116,600	2,840	810	23,000	20,100
29	9,700	1,290	124,900	115,100	2,810	698	19,600	17,100
30	9,680	1,170	113,200	104,400	2,780	831	23,100	20,400
令和 元（概数）	9,540	1,130	107,900	99,500	2,770	653	18,100	16,000

資料：農林水産省統計部「果樹生産出荷統計」

◎ 関連データ

1 ももの卸売数量及び卸売価格の推移
（主要卸売市場）

2 すももの卸売数量及び卸売価格の推移
（主要卸売市場）



資料：農林水産省統計部「青果物卸売市場調査（日別調査）」
（2のグラフにおいて同じ。）

注：全国の主要都市に所在する主要な中央卸売市場の日別値を
加算し算出したものである（2のグラフにおいて同じ。）

【調査結果】

1 もも

(1) 結果樹面積は9,540ha で、前年産に比べ140ha（1%）減少した。

(2) 10a 当たり収量は1,130kg で、前年産に比べ40kg（3%）下回った。

(3) 収穫量は10万7,900 t、出荷量は9万9,500t で、前年産に比べそれぞれ5,300 t（5%）、4,900 t（5%）減少した。

(4) 都道府県別の収穫量割合は、山梨県が28%、福島県が25%、長野県が11%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図2 ももの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

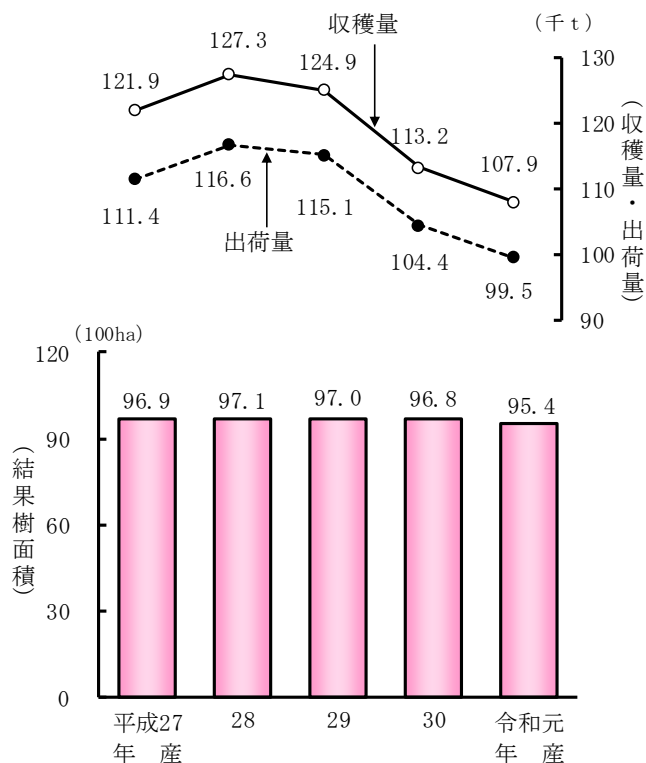


図3 ももの都道府県別収穫量

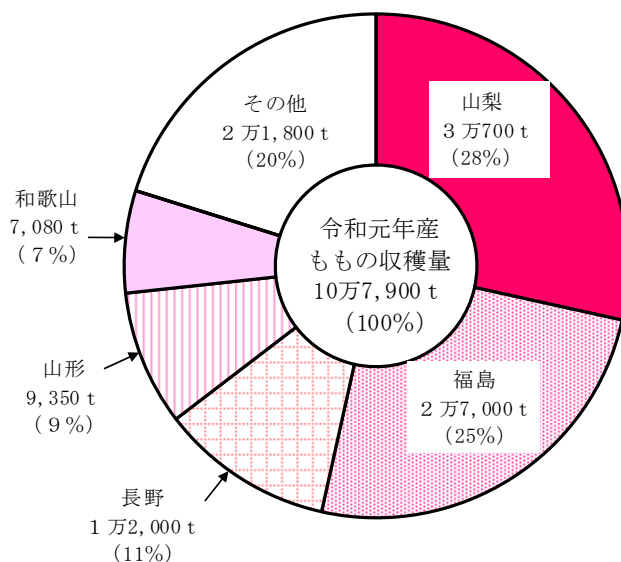


表1 令和元年産ももの結果樹面積、10a 当たり収量、収穫量及び出荷量（全国）

品目	結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量	対前年産比			
					結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
もも	9,540	1,130	107,900	99,500	99	97	95	95

2 すもも

(1) 結果樹面積は2,770haで、前年産並みとなった。

(2) 10a当たり収量は653kgで、前年産に比べ178kg(21%)下回った。

これは、開花期の低温等の影響による受精不良で、着果数が少なかったこと等による。

(3) 収穫量は1万8,100t、出荷量は1万6,000tで、前年産に比べそれぞれ5,000t(22%)、4,400t(22%)減少した。

(4) 都道府県別の収穫量割合は、山梨県が30%、長野県が15%、和歌山県が11%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図4 すももの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移(全国)

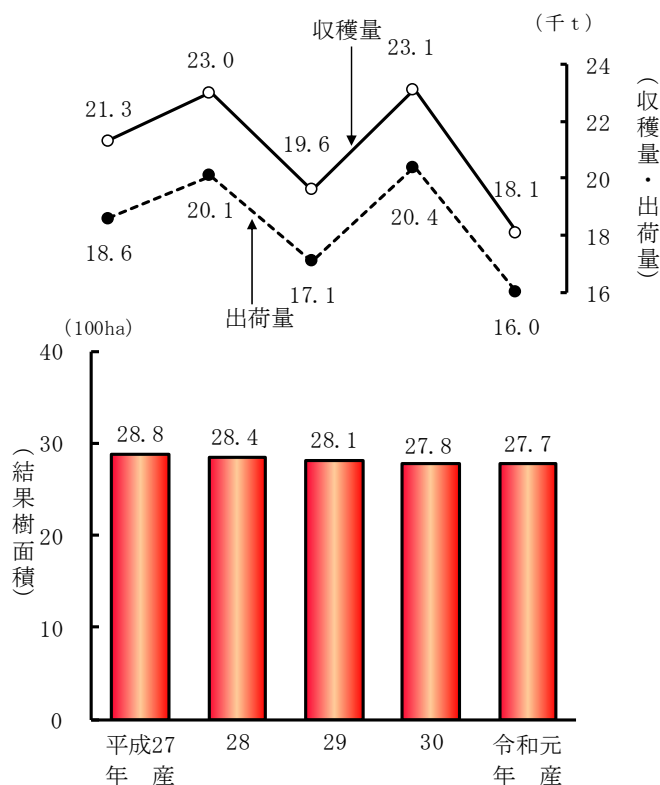


図5 すももの都道府県別収穫量

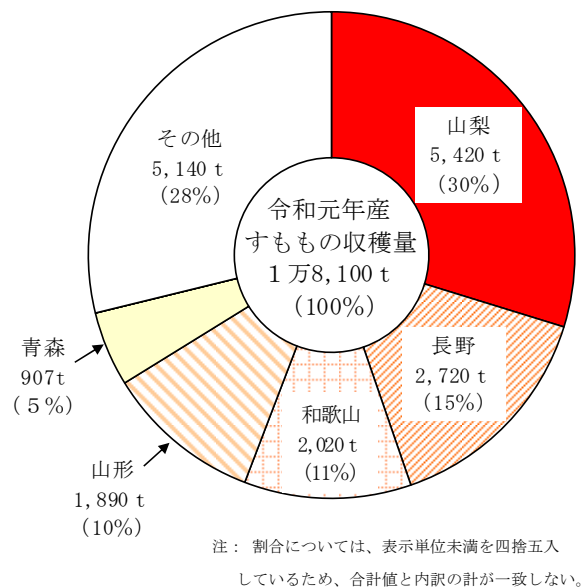


表2 令和元年産すももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量(全国)

品目	結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	対前年産比			
					結果樹面積	10a当たり収	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
すもも	2,770	653	18,100	16,000	100	79	78	78

【統計表】

1 令和元年産ももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

全 国 都 道 府 県	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比			
					結 果 樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
全 国	9,540	1,130	107,900	99,500	99	97	95	95
うち 青 森	129	1,240	1,600	1,410	nc	nc	nc	nc
山 形	615	1,520	9,350	8,540	101	115	116	117
福 島	1,590	1,700	27,000	24,900	99	113	112	111
新 潟	216	890	1,920	1,700	98	122	120	121
山 梨	3,120	984	30,700	29,300	99	79	78	78
長 野	990	1,210	12,000	11,300	96	95	91	93
岐 阜	66	985	650	595	97	110	107	106
和 歌 山	708	1,000	7,080	6,490	95	101	95	96
岡 山	626	1,020	6,390	5,720	100	108	107	108
香 川	169	565	955	809	99	86	85	85
愛 媛	73	577	421	358	96	147	141	141

注：調査は、平成28年（全国調査年）の全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び果樹共済事業を実施する都道府県（主産県）を対象に実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した（以下同じ。）。

2 令和元年産すももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

全 国 都 道 府 県	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比			
					結 果 樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
全 国	2,770	653	18,100	16,000	100	79	78	78
うち 北 海 道	136	626	851	792	101	105	106	104
青 森	107	848	907	813	100	85	86	86
山 形	247	765	1,890	1,670	101	94	95	94
福 島	144	555	799	674	99	110	108	108
山 梨	795	682	5,420	4,900	99	70	69	70
長 野	375	724	2,720	2,480	100	88	88	89
和 歌 山	292	693	2,020	1,860	100	61	61	61
福 岡	62	1,180	732	693	95	106	101	103
鹿 児 島	65	155	101	83	98	50	50	50

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作況調査の果樹調査として実施したものであり、果樹の結果樹面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、食料・農業・農村基本計画における果実の生産努力目標の策定及びその達成に向けた各種対策の推進、農業保険法に基づく果樹共済事業の適正な運営等のための資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

全ての都道府県を調査対象とする全国調査を6年ごとに実施しており（直近では平成26年産）、全国調査以外の年に当たる本年産にあつては、調査対象品目ごとに、面積調査結果に基づき、全国の栽培面積（平成28年）のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び調査対象品目に係る果樹共済事業を実施する都道府県を調査の範囲（主産県）としている。

(2) 調査対象者の選定

ア 関係団体調査（全数調査）

主産県において、調査対象品目を取り扱っている全ての農協等の関係団体とした。

イ 標本経営体調査（標本調査）

都道府県ごとの収穫量に占める関係団体の取扱数量の割合が8割に満たない都道府県については、2015年農林業センサスにおいて、調査対象品目を販売目的で栽培し関係団体以外に出荷した農林業経営体から、品目別作付面積の規模に比例した確立比例抽出法により抽出をした。

標本の大きさ（標本経営体数）については、全国の10a当たり収量を指標とした目標精度（2～3%）が確保されるよう、都道府県別に調査対象品目の全国収穫量に占めるシェアを考慮して目標精度（5～20%）を設定し、必要な標本経営体数を算出した。

(3) 調査対象者数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数 ①	有効回収数 ②	有効回収率 ③=②/①	母集団の大きさ ④	標本の大きさ ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	有効回収数 ⑦	有効回収率 ⑧=⑦/⑤
	団体	団体	%	経営体	経営体	%	経営体	%
もも	158	146	92.4	9,978	557	5.6	312	56.0
すもも	100	95	95.0	3,111	544	17.5	288	52.9

注：「有効回収数」は、回収があったもののうち、当年産において栽培がなかった標本経営体等を除いた数である。

3 調査事項

(1) 関係団体調査

調査対象品目の結果樹面積及び出荷量

(2) 標本経営体調査

調査対象品目の結果樹面積、出荷量及び自家用、無償の贈与の量

4 調査期日

収穫・出荷終了時

なお、本調査の年産区分の主たる収穫期間は、次のとおりである。

品目	主たる収穫期間
もも	令和元年7月～8月
すもも	令和元年6月～8月

5 調査方法

本調査は、関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査及び標本経営体に対する往復郵送調査により行った。

6 集計方法

(1) 都道府県値

ア 結果樹面積の集計は、関係団体調査結果を基に行っており、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

イ 収穫量の集計は、関係団体調査及び標本経営体調査結果から得られた10a当たり収量に結果樹面積を乗じて算出し、必要に応じて統計調査員による巡回又は職員による情報収集の結果により補完している。

ウ 出荷量の集計は、関係団体調査結果から得られた出荷量及び標本経営体調査結果から得られた10a当たり出荷量等を基に算出している。

(2) 全国値

本年産調査は主産県調査年に当たることから、全国調査を行った平成26年産の調査結果に基づき、次により推計した。

ア 結果樹面積

$$\text{全国値} = \text{結果樹面積の主産県値} + \frac{\text{結果樹面積の主産県値}}{\text{栽培面積の主産県値}} \times (\text{栽培面積の全国値} - \text{栽培面積の主産県値})$$

(注) 「栽培面積」は、農林水産省統計部が令和元年10月に公表した「令和元年果樹及び茶栽培面積（7月15日現在）」による。

イ 収穫量及び出荷量

$$\text{全国値} = \frac{\text{平成26年産の全国値} \times \text{当年産の主産県値}}{\text{平成26年産の主産県値}}$$

7 実績精度

本調査結果（主産県計）の10a当たり収量を指標とした実績精度を標準誤差率（標準誤差の推定値÷推定値×100）により示すと、次のとおりである。

区 分	標準誤差率(%)
も も	2.1
す も も	2.5

8 用語の解説

- (1) 栽培面積とは、調査日現在において、複数年にわたって収穫を行うことができる永年性作物の栽培に利用している面積をいう。
- (2) 結果樹面積とは、栽培面積のうち、生産者が本年産の果実を収穫するために結実させた面積をいう。
- (3) 収穫量とは、収穫したもののうち、生食用又は加工用として流通する基準を満たすものの重量をいう。
- (4) 出荷量とは、収穫量から生産者の自家消費量、生産物を贈与した量等を差し引いた重量をいう。

9 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		6 桁 (10 万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

(2) この統計表でを使用した記号は、次のとおりである。

「nc」：計算不能

(3) この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「令和元年産もも、すももの結果樹面積、収穫量及び出荷量」（農林水産省）による旨を記載してください。

10 その他

この資料の数値は、概数値である。確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和2年12月予定）するとともに、その後刊行する『令和元年産果樹生産出荷統計』に掲載する。

なお、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

○ 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「果樹」の「作況調査（果樹）」で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kazyu/index.html#y6 】

【関連リンク】

果樹関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞生産局＞園芸作物（野菜・果樹・花き）＞果樹のページ

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/>

果樹農業振興基本方針：農林水産省＞組織別から探す＞生産局＞園芸作物（野菜・果樹・花き）＞果樹のページ＞果樹施策の概要

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/pdf/kajyu427.pdf>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 園芸統計班
電話：（代表）03-3502-8111 内線 3680
（直通）03-6744-2044
FAX： 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 広報普及班
電話：（代表）03-3502-8111 内線 3589
（直通）03-6744-2037
FAX： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



令和2年2月1日現在で、2020年農林業センサスを実施します。